



旧口大屋小学校へベンチャー企業が進出



協定書を手にする青木社長（右）と広瀬市長

農産物加工販売などを行うシナジーパワー株式会社（東京都渋谷区）が旧口大屋小学校に事業所を設置することになり、昨年12月27日、八鹿文化会館で企業誘致協定調印式が行われました。

シナジーパワー(株)は、旧口大屋小学校の校舎・体育館を活用して、農産物加工施設を整備のうえ、農産加工品の生産と出荷をします。また、校庭には太陽光パネルを設置し、売電事業も展開します。

青木宏真社長は、「市の熱意に打たれた。市が変わっていく改革の1つのきっかけになれば」と進出の決意を述べられました。

歌で養父市を応援したい〜養父市ソングを制作

音楽家の益田兼大朗さん（大阪府八尾市）が、豊かな自然ややさしさをテーマにした歌「この町に来たら夢に逢える」と「戻っておいで」の養父市ソング2曲を制作し、1月11日、ビバホールで市民らに披露しました。

制作のきっかけは、養父市ファンの廣岡三智子さんが、益田さんのラジオ番組で養父市のまちづくりに対する取り組みを紹介したところ、これに共感されたものです。益田さんは、「この曲をみんなと一緒に歌って、このふるさとにしたい」と制作の思いを語っていました。



養父市ソングへの思いを語る益田さん

ダンスは楽しいよ！ 特別ダンス体験会

1月6日、ビバホールで、「ダンスの楽しさを伝えたい」とダンス体験会が開かれ、市内外から約160人が集まりました。

この体験会は、本年度から学校の正式科目になったダンスを、子どもたちの心と体の成長につなげ、若者が集まる場づくりに活かしたいとの思いから始められました。

関西ダンスアワード入賞チームのステージ披露のあと、参加者らは、年代ごとに体験レッスンを受け、ダンスを楽しみました。



ダンスを楽しむ参加者ら

高校生Jリーガー岩波選手 養父市役所を訪問

高校生ながらプロサッカー選手として活躍し、サッカーU-19日本代表に選ばれた岩波拓也選手（ヴィッセル神戸所属）が、1月7日、養父市役所を訪問しました。

岩波選手は、養父市に本校を置く第一学院高等学校の通信学習を受けており、スクリーニングの一貫の職場体験として、市役所の仕事を見学したものです。

広瀬市長は、「次のオリンピックに向けて頑張ってください」とエールを送り、岩波選手は、「ヴィッセル神戸で活躍して、日本代表や、オリンピックへ出場できる選手になりたい」と抱負を語りました。



広瀬市長からエールを受け、握手をする岩波選手（右）

豊作・無病息災を祈願する伝統行事

別宮のお綱打ち



上組、下組に分かれて、大綱を引き合う区民ら

1月9日、養父市別宮で、江戸時代から続くといわれる伝統行事「別宮のお綱打ち」が行われました。

区の作業場に集まった区民らは、持ち寄った稲わらをねじりながら回し、長さ約18m、直径約30cm、重さ約80kgもある大綱を完成させました。

その後、お綱屋敷へ移動し、「上組」と「下組」に分かれて、今年の農作物の出来を占う綱引きを行いました。

結果は、「上組」の勝ち。行司役の西谷眞一区長は「今年も豊作間違いなし」と告げ、五穀豊穡を祈願しました。

養父中学校ボランティア部

関西ブロック賞受賞

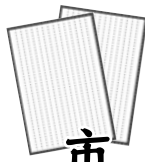
青少年によるボランティア活動を支援し、激励する第16回ボランティア・スピリット（ブルデンシャル生命保険など主催）の関西ブロック賞に、養父中学校ボランティア部が選ばれました。

同部は、近くの老人ホームを毎週訪れ、喫茶コーナーを開設し、お年寄りとの交流を深めたり、お弁当を届ける手伝いなど、地域と高齢者とのふれあいを大切にする活動をしています。

前部長の藤野美紀さん（15）は、「私たちの活動をたくさんの人に知ってもらえ、うれしかった」と喜びを語っていました。



関西ブロック賞を受賞したボランティア部の生徒たち



市長便り

今年の養父市は比較的雪が少なく、平穏な冬が過ぎようとしています。我が家の庭の蠟梅ろうばいもきれいに咲いております。蠟梅の花は小さく可憐で、その香りは甘く、優しく、寒い季節の緊張をほっと和ませてくれます。

節分の日には、近所から「福は内、鬼は外」の豆まきの声が聞こ

えてきました。私が子どもの頃は、物も十分に無く、娯楽も少なかった時代で、節分の飾り付けを行った神棚に供えた炒り豆を、年長者が一年の厄払いと繁栄を願って家の中、外に蒔き、子ども達は鬼の面をかぶり、喜び、はしゃぎ回りました。

季節の節目ごとに行われてき

た伝統的な行事が、年々少なくなってきたいます。生活様式の変化により快適性や利便性が良くなった反面、生活から季節感が失われてきていますが、伝統的な行事には、自然と人が調和して暮らすための大切な生活の知恵と工夫が込められています。

その行事を維持し、保存することが、市民の地域への愛着と誇りにつながり、ひいては地域の魅力向上にもつながると考えています。

今後、養父市が自立し他の地域とは一味違ったまちづくりを行うには、市民の皆さま一人ひとりによる地域へのひたむきな思いと、そこから生まれる一体感が重要です。市民と協力して、これからも素晴らしい伝統行事を継続しつつ、新たな養父市らしい行事を行っていきたくないと考えています。節分冬中と言います。寒さが続きますが体調に気をつけてお過ごしください。

市長 広瀬 栄